

図書ニュース

第1号

大阪府立北野高等学校図書館 2011.5.20 発行

第一中間考查、お疲れさま。

テストの反省が終わったら、本を読んではどうでしょうか。

私は仕事に必要な本は月に4,5冊は購入します。ペーパーバックや辞書、文法書、自己啓発本、教育関連の本など。そして、全てを読まずに次を買う。部屋には同じような本が並ぶはめになる。私は教養のない、いや、教養の少ない大人です。図書館担当になって分かったことは、他の先生方は私とは比べ物にならないほど、本を読んでいる。「仕事本」が中心の私は、図書館の部会で肩身の狭い思いをしている。そこで、決心しました。今年は「視野を広げるための読書」にみなさんと一緒に挑戦したい！と。

食べ物に好き嫌いが無い方が体には良い。知識にも同じことが言える。そこで「食わず嫌いの本」を今回は探してみました。6月から12月までは岩波新書、1から3月は岩波文庫です。一緒に始めませんか？本に書いてある内容紹介をそのまま載せておきます。1冊でも興味を持ってもらえると嬉しい。

6月の課題

☆佐藤勝彦『宇宙論入門 —— 誕生から未来へ ——』 443/S3/2

アインシュタイン以来約 100 年, 137 億年という宇宙の歴史が明らかになってきた。その研究史は逆転につぐ逆転の連続で、現在は暗黒エネルギーの支配という深く謎めいた状況にある。はたして謎は解けるのか？

ひょっとすると、夜空の見方が変わるかもしれないと期待している。

7月の課題

☆島田虔次『朱子学と陽明学』

122/S2/2

仏教の汎神論的思想を容れて宋代に確立した朱子学, 心即理・致良知・知行合一を説く明代に生まれた陽明学。両者とも近世中国を支配した儒教哲学であり、また唯心論的実践哲学である。日本人の倫理観にも大きく影響を与えたこれらの学説の成立過程と歴史的役割を明らかにし、中国思想史におけるその位置づけを試みる。

儒教哲学、唯心論的実践哲学。この漢字を読んでも何のことかわからない。生き方を考えるのが哲学だろうか。

8月の課題

☆佐藤文隆『職業としての科学』

404/S17/1

科学は大きな転換期にある。社会を巻き込んで突っ走る一方、科学技術立国政策によって科学はリスクな職業と化し、もはや聖域とも見られなくなった。この巨大な社会資源を

本校図書館の
図書番号

生かすために、未来に受け継ぐべきものは何か。宇宙物理学に半世紀携わってきた著者が科学の歴史を縦横に語り、発想の転換を促す。

ウェーバーの「職業としての…」を想起させるタイトルに惹かれた。今後の日本を支えるのも、やはり、科学であろう。

9月の課題

☆朝永振一郎 『物理学とは何だろうか(上)』

420/T516

現代文明を築きあげた基礎科学の一つである物理学という学問は、いつ、だれが、どのようにして考え出したものであろうか。十六世紀から現代まで、すぐれた頭脳の中に芽生えた物理学的思考の原型を探り、その曲折と飛躍のみちすじを明らかにしようとする。

もっとも苦手を感じた物理と向き合う。修行としての読書となるだろう。(下)まではたどり着かないだろうと弱気になっている。

10月の課題

☆芦原義信 『東京の美学—— 混沌と秩序 ——』

519/A1/3

欧米の都市と東京を比較し、その特質を日本人の生活習慣や美学的な観点から描く。ニューヨークやパリが都市全体を考えて計画されているのに対し、東京は部分を積みかさねた都市である。一見混沌としているその中に隠れた秩序があることに着目しつつ、同時に東京の街並みに欠けている美の必要性を説き、都市計画の欠点を明らかにしてゆく。

京都で数年過ごして、大阪に帰ってくると、京都の町並みはなかなか美しかったなあと感じる。旅する時に新しい視点で町を楽しめそうである。

11月の課題

☆川崎 健『イワシと気候変動—— 漁業の未来を考える ——』

663/K1/1

大漁・不漁を左右する海の魚の数は、地球の大気や海と連動して数十年スケールで変動していた——この「レジーム・シフト」を著者は1983年、世界で初めて見出した。90年代以降、世界的に大きく進展した研究成果を踏まえ、これからの海と海洋生物資源の持続的利用のあり方に明確な方向性を示す。新しい地球環境観への誘い。

寿司好きの私は読むべき本です。ベルトコンベアを流れる寿司を眺めて、何かを思う初冬になるだろう。

12月の課題

☆大岡信 『抽象絵画への招待』

723/06/1

二十世紀の美術は、なぜ「抽象」を生んだのか。新しい手法と様式を通して、画家たちは何を語ろうとしているのか。若い日に抽象絵画と出会い、その魅力を堪能してきた詩人が、自らの楽しみ方を縦横に語る。難解とされがちな領域へ読者をひき入れ、躍動する美の世界を案内する待望の書。

高校時代、美術の授業の宿題で学校近くの小さな美術館に通っていたのを思い出しました。特に抽象画が好きでした。この本を読むと、また美術館に行きたいと思うようになるかもしれない。カラー版なので視覚的にも楽しめそう。

1～3月の課題

☆ブルフィンチ著 野上弥生子 訳 『ギリシア・ローマ神話』 081/I 1-8/225-1

西欧の文化芸術に親しもうとする人にとってギリシア・ローマ神話の知識は不可欠である。この分野の学問的研究は長足の進歩をとげたが、しかし神々と人間の豊かで興味つきぬ世界を描いたブルフィンチのこの書物はすこしも価値を減じていない。『伝説の時代』の中から神話篇の全部を収めた。

これまで避けてきた領域です。英語を教える立場にありながら「受験には関係ない」という逃げ口上を掲げてきました。今は読むしかないという気持ちです。

☆ファラデー著 竹内敬人 訳 『ロウソクの科学』 081/I 1-9/909-1

一本のロウソクに火を点(とも)せば、深遠な科学の世界への扉が開く。製本工から、偉大な科学者になる夢を叶えた。ファラデー(1791-1867)が、もっとも愛した聴衆——少年少女に語りかけ、実験をくりひろげる名講義。世界中で愛読されてきた本書は今なお科学の精神を生き生きと伝える。現代の読者のために詳細な訳注を付す。

文系の私には科学は憧れの分野です。理解できないかもしれないが、ロウソクを見る目が変わるかもしれない！そんな不思議な本を楽しみにしている。

☆ベラ・バラージュ著 佐々木基一ほか 訳 『視覚的人間』081/I 1-9/557-1

一九世紀末に発明された映画カメラは瞬く間に無声映画を創り出した。本書はその無声映画が絶頂への登り路にさしかかった時に、クローズアップ、モンタージュを中心にして理論的・体系的に整備した古典的名著。映画という新しい芸術の果すであろう社会的・文化史的役割を語る映画人バラージュの情熱は、革創期の人間固有のものである。

映画好きだった私。主に英語を学ぶため、楽しむためにしか映画をとらえて来なかった。そんな私が芸術作品として映画を鑑賞する日が来るかもしれない。

最後に私が高校時代に読んだ本 + α を紹介します。不思議と内容は一切残っていません。高校時代には内田康夫や森毅を愛読していましたが、今回は割愛させていただきます。

岩波新書

◎なだ いなだ『権威と権力』

302/N7/1

全ての教師に対して苛立ちを覚えていた時期に読みました。なぜあんなに威張っているのかと。この本でなだいなださんと出会えたことは人生の宝になりました。お医者さんは博学だなぁとも思いました。

◎なだ いなだ『民族という名の宗教』

316/N10/1

アフリカ大陸や旧ユーゴスラビアなどで民族対立が新聞を賑わせていた当時に読みました。学校の勉強よりも、近くの図書館で政治学や国際関係の本をカッ

コつけて読んでいました。明石康さんや緒方貞子さんが国際社会で活躍しており、彼らは私の憧れの的でした。

◎本間浩 『難民問題とは何か』

369/H5/1

私が法学部を目指すきっかけの一つがこの本との出会いでした。国際関係論と国際法を学ぼうと決めたのです。当時、国際法の権威は京都大学にいらっしゃいましたが、学力が及ばず神戸大学に決めました。UNHCRなどで働けたらいいなあと夢見ていた高校生でした。

◎マーク・ピーターセン『日本人の英語』

830/P3/1

a をつけたり、the をつけたり、英語は日本語と違う。文法書ではない本を探していて見つけたのがこの本でした。当時はインターネットなどではなく、本屋で偶然見つけるか、図書館で検索するくらいしか本を探す方法はなかった。学校の帰りに本屋で見つけた時は感動しました。

講談社現代新書

◎オギュスタン・ペルク著 篠田 勝英 訳『日本の風景・西欧の景観』

(北野図書館にはありません)

この本は浪人中に国語の先生に勧められて、さっと読みました。当時の私には全く興味が無かったこと、この本をなかなか面白いと言った友人は国語の成績が良かったことを覚えています。さらに「岩波新書を100冊以上読むと2次の国語の文章が苦にならない」という噂がありました。私は吉本隆明よりもばななが好きな高校生でした。『tugumi』がセンター試験の本番で出題された時は、本文をほとんど読まずに解いたのを覚えています。国語教員だった父は、予想が大きく外れて悔しがっていました。

岩波文庫

◎ヒルティ『眠られぬ夜のために 第一部』

081/I1-4/53-1b

4, 5年前に友人がプレゼントしてくれた本です。私はクリスチャンではありませんが、人生を前向きに生きよう、人生の流れに身を任せようと思い、安眠できる効果があります。この本はプレゼントされなければ、絶対に手に取ることはなかったでしょう。友人に感謝しています。

自分一人では絶対にたどり着けない世界を味わう。それが本のいいところ。それを分かっている人は、知らない人よりも、少し幸せなのでは。受験に必要なだから、本を読む。それも一つの出会いでしょう。本との出会いが人生を変えることもあります。心が癒されることもあります。みなさんにもいい出会いがありますように。